

焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

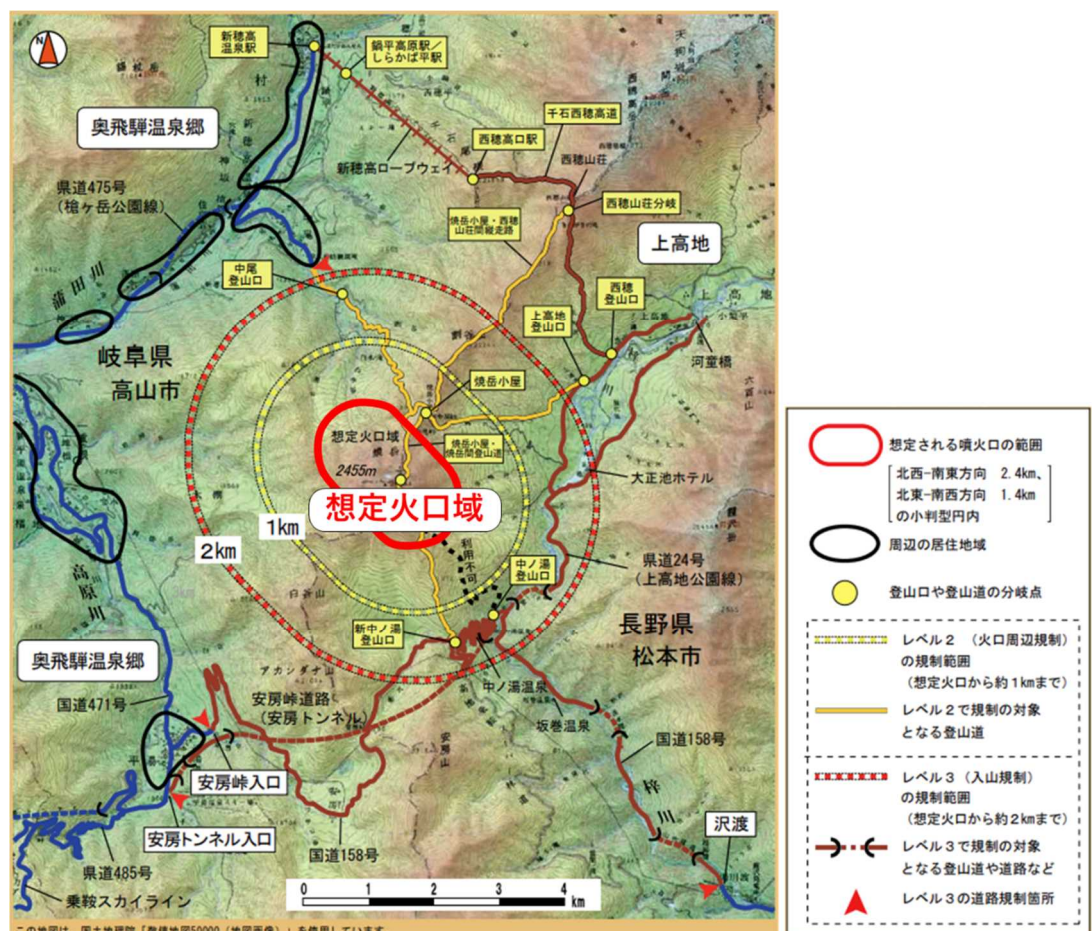
<噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ>

焼岳では、6月中旬以降、地震活動は低調に推移しています。

このことから、火山活動は5月23日の地震増加前の状態に戻り、想定火口域から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられるため、本日（12日）14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

防災上の警戒事項等：

山頂付近を含む想定火口域内では、突発的に火山ガス等が噴出する可能性があります。登山する際は、火山活動の異変に注意するとともに、ヘルメットを着用するなどの安全対策をしてください。また、噴気地帯にはとどまらないでください。



- 火山活動解説資料のページ https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
- 資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>
- 国土地理院、北陸地方整備局、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。また、資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 50000（地図画像）』を使用しています。

○活動概況と評価

焼岳では、GNSS連続観測で山頂付近の緩やかな膨張の可能性のある変化が継続しています。そのような状況のなか、5月23日から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しました。このため、5月24日9時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

その後、地震活動は6月上旬頃まで多い状態でしたが、6月中旬以降、地震活動は低調に推移しています。また、山頂付近の噴気の状態や地殻変動にも地震増加に伴う変化は認められません。これらのことから、火山活動は地震増加前の状態に戻ったと考え、本日（12日）14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

しかしながら、GNSS連続観測では、山頂付近での緩やかな膨張の可能性のある変化は継続しており、焼岳周辺では数年おきに震度1以上を観測する地震を含む活発な地震活動がみられることから、中長期的に焼岳の火山活動は高まってきている可能性があります。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

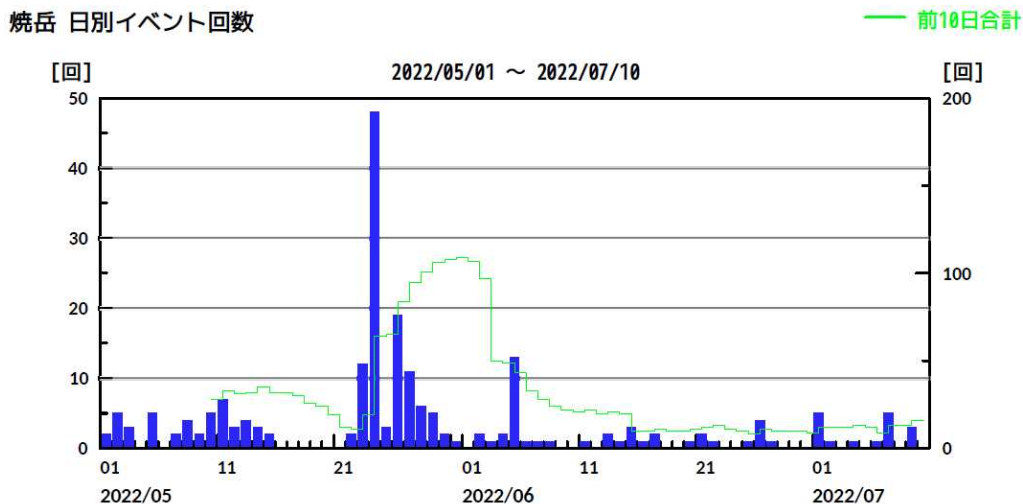


図2 焼岳 山頂付近の日別地震回数（2022年5月1日～7月10日）

5月23日から6月上旬にかけて山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しました。6月中旬以降は火山性地震の発生は少ない状態で推移しています。

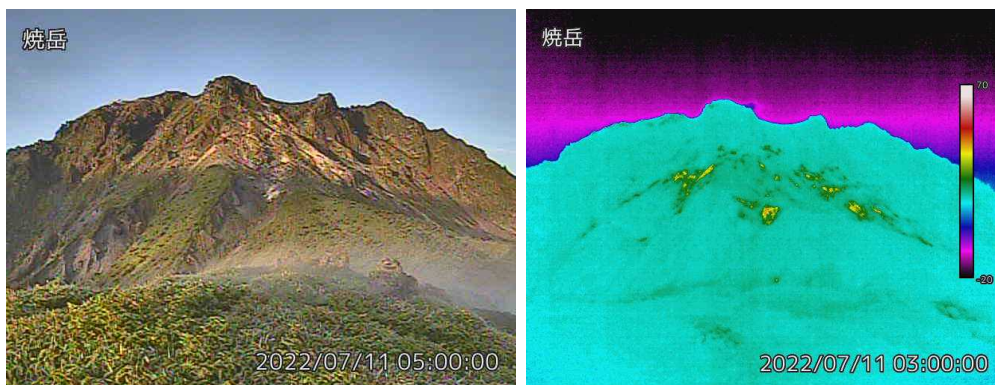


図3 焼岳 中尾峠赤外熱映像カメラによる焼岳の北側斜面の可視画像（左）と地表面温度分布（右）（撮影方向は図6を参照ください。）

焼岳山頂周辺および北側斜面には噴気地帯や地熱域が認められますが、地震増加前後で噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化はありません。

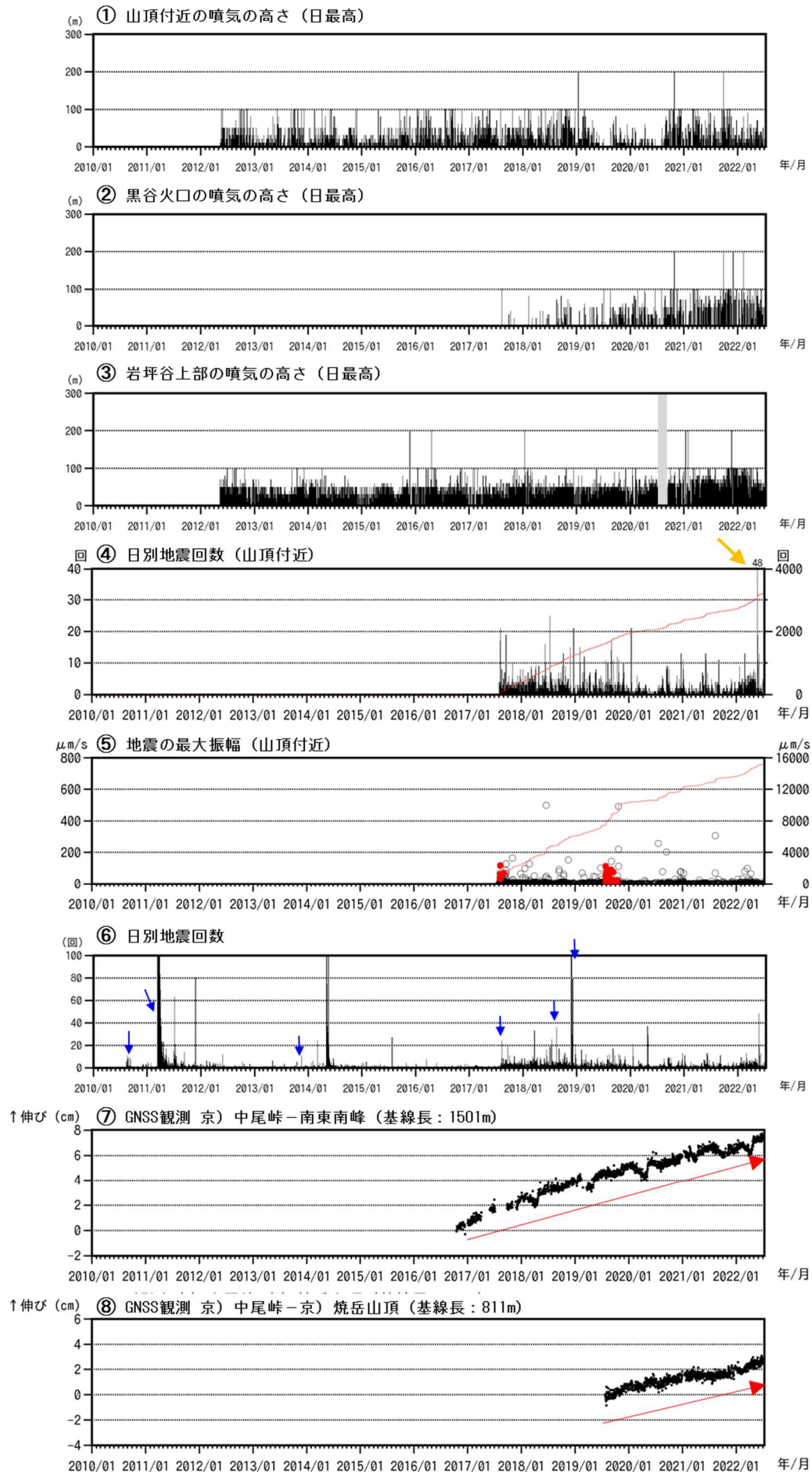


図4（前ページ） 焼岳 火山活動経過図(2010年8月2日～2022年7月10日

※GNSSについては7月6日まで)

- ③岩坪谷上部の噴気の高さは、2020年7月7日から9月10日にかけて、障害のため欠測です（灰色囲み）。
- ④山頂付近の地震とは、焼岳山頂付近の概ね海拔0km以浅が震源と推定される地震のことを示します。また、④の赤線は日別地震回数の積算、⑤の赤線は最大振幅の積算を示します。●：空振を伴う火山性地震
- ⑥2017年8月1日以降、山頂付近の地震と山頂付近以外の地震を分けて計数していますが、⑥ではこれらを合計した回数を示しています。図中の青矢印は計数基準の変更を示しています。
- ・黒谷火口では、2017年夏頃から噴気が時々観測されるようになり、2019年夏頃から噴気を観測する日が増えています。
- ・焼岳周辺では震度1以上を観測する地震を含む地震活動が時々みられています。
- ・5月23日から6月上旬頃にかけて山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しました（橙矢印）。
- ・GNSS連続観測において、山頂付近の観測点で基線の伸びが継続しており、山頂付近での緩やかな膨張の可能性のある変化が続いていると考えられます（赤矢印）。

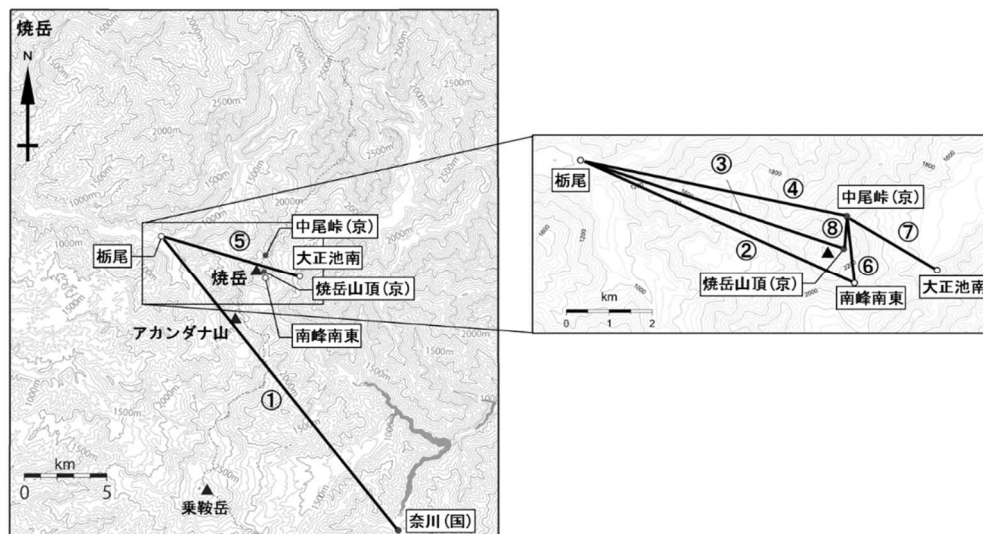
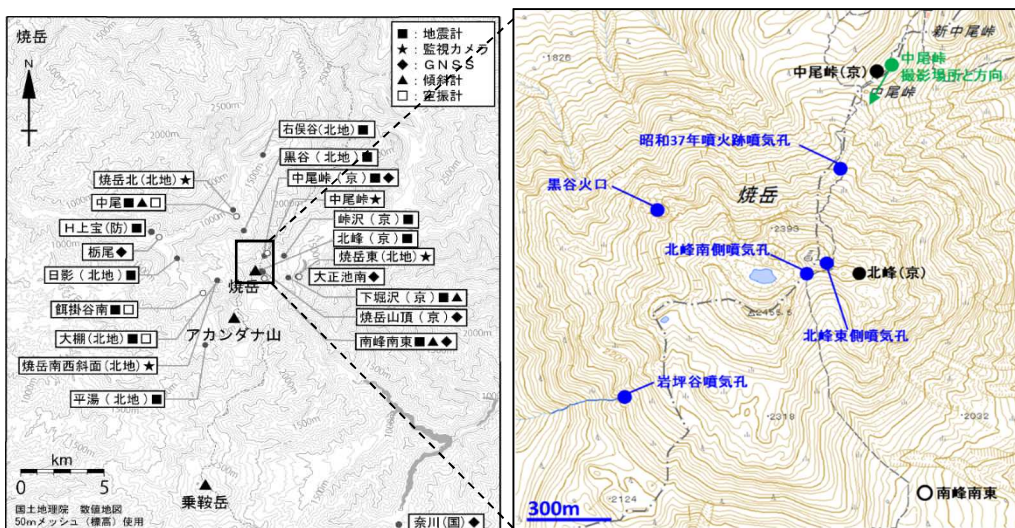


図5 焼岳 GNSS連続観測点配置

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

⑥⑧は図4のGNSS基線⑦⑧に対応しています。

(国)：国土地理院、(京)：京都大学



○は気象庁、●は気象庁以外の機関の観測点を示しています。

(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学、(北地)：北陸地方整備局

図6 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置

右図中の緑矢印は、図3の撮影位置と方向を示します。